

名大トピックス

NAGOYA UNIVERSITY TOPICS

No.291

2017年8月

第56回全国七大学総合体育大会開会式を開催



目次

●ニュース

第56回全国七大学総合体育大会開会式を開催	3
学術奨励賞授与式を挙	4
松尾総長が全学教育科目「名大の歴史をたどる」と題して講義	4
第57回経営協議会を開催	5
ホシザキ奨学金授与式を挙	5
御嶽山火山研究施設開所式を挙	6
あいち・なごや強靱化共創センター開設記念式典を開催	6
男女共同参画センター看板上掲式を挙	7
第3回名古屋大学卓越・先端・次世代研究シンポジウムを開催	7

●知の先端

ソフトウェアの計測	8
-----------	---

森崎 修司（大学院情報学研究科准教授）

●知の未来へ

有機化学を学び、分子を創る醍醐味	10
------------------	----

大松 亨介（トランスフォーマティブ生命分子研究所特任准教授）

●部局ニュース

筒井宣政東海メディカルプロダクツ会長へ紺綬褒章を伝達	11
----------------------------	----

第25回名古屋ビジネスセミナーを開催	11
--------------------	----

ベトナム保健省から Memorabilia “For People’s Health” を授与	12
---	----

第二回医薬系3部局交流シンポジウム及び環境医学研究所・群馬大学生体調節	12
-------------------------------------	----

研究所合同シンポジウムを開催	
----------------	--

第131回防災アカデミーを開催	13
-----------------	----

第6回減災連携研究センターシンポジウムを開催	13
------------------------	----

第23回博物館特別展「球状コンクリーションの謎」を開催	14
-----------------------------	----

「名大キャンパスの野鳥」を開催	14
-----------------	----

「達人と話そう・おもしろ博物学」を開催	14
---------------------	----

●名大を表敬訪問された方々	15
---------------	----

●新たに締結した学術交流協定	15
----------------	----

●構成員を対象とした研修	15
--------------	----

●本学関係の新聞記事掲載一覧 平成29年6月16日～7月15日	16
---------------------------------	----

●INFORMATION

第13回名古屋大学ホームカミングデイ「尖った情報技術、やわらかな人間社会」	21
---------------------------------------	----

を10月21日（土）に開催	
---------------	--

「名古屋大学プロフィール2017」を刊行	22
----------------------	----

●イベントカレンダー	22
------------	----

●ちょっと名大史	
----------	--

教育学部附属学校の東山移転まで	24
-----------------	----

第56回全国七大学総合体育大会開会式を開催





- 1
- 2
- 3
- 1 レセプション：大会の成功を祈念して
 - 2 開会式：応援団による演舞
 - 3 開会式：選手宣誓

第56回全国七大学総合体育大会（通称：七大学戦、七帝戦）の開会式が、7月8日（土）、豊田講堂において開催されました。

全国七大学総合体育大会は、北海道、東北、東京、名古屋、京都、大阪、九州の旧七帝大の体育会学生が自主運営により輪番で開催する大会で、参加選手は各競技の結果だけではなく、獲得得点による総合成績も競い合う大会です。

第56回を迎える今大会は、本学が主管校となって、昨冬から今夏にかけて42競技が繰り広げられています。

開会式では、前回の総合優勝校である東京大学から優勝旗及び優勝杯の返還が行われ、続いて、大会会長である松尾総長から熱のこもったあいさつが述べられました。

また、例年、本大会に特別協賛をいただいている一般社団法人学士会の佐々木毅理事長から来賓あいさつが述べられ、合わせて、学士会から総合優勝校に贈呈されるクリスタルトロ



フィーが披露されました。

開会式の締めくくりとして、本学応援団による演舞が披露され、七大学へのエールが贈られると、観客席からは感嘆の拍手が沸き上がりました。

開会式終了後にはレセプションが行われ、各大学総長からは大会の成功と選手達の活躍を祈念して激励の言葉が寄せられました。続いて、各大学の体育会委員長からも、抱負や互いに健闘を誓い合う言葉が述べられました。

レセプションでは、本学公認団体であるジャズ研究会による演奏、書道サークル和及及びよさこい鳴子踊り

サークル快踊乱舞によるパフォーマンスの披露があり、レセプションを大いに盛り上げました。

各競技は、本学の運動施設をはじめ、名古屋近郊のスポーツ施設を会場として9月下旬まで開催されます。詳しくは七大学戦ホームページをご覧ください。

第56回全国七大学総合体育大会
ホームページ

<http://www.7-univ.jp/>

学術奨励賞授与式を挙

平成29年度名古屋大学学術奨励賞授与式が、6月19日(月)、豊田講堂第1会議室において挙

行されました。同賞は、学術憲章に定める基本理念に基づき、本学の大学院博士課程後期課程に在学する特に優秀、かつ、将来有望な学生に対して、その教育研究活動を奨励することを目的とし、平成23年度に創設された顕彰制度です。今回の受



記念撮影

賞者は8名であり、過去6回を加えると同賞の受賞者は51名となります。受賞者には、表彰状及び副賞として学業奨励金50万円が授与されました。

授与式には、松尾総長をはじめ理事、研究科長、指導教員等が列席し、総長からは「これからの高度知識基盤社会におけるわが国の持続的発展を支える原動力となるよう、これまでの実りある業績を踏まえて、前途有望な若手研究者として、多いに活躍されることを期待している。さらに研究活動に邁進し、人類社会が直面している複雑で解決が困難な問題に対しても、果敢に挑戦していただきたい」と激励の言葉がありました。

受賞者は以下のとおりです。

【人社系】	大学院教育発達科学研究科	白木 優馬
	大学院法学研究科	本部 勝大
【理工系】	大学院理学研究科	末永 大輝
	大学院理学研究科	吉村 柁彦
	大学院工学研究科	鄭 弘鎮
	大学院多元数理科学研究科	松井 紘樹
【生物系】	大学院医学系研究科	横井 暁
	大学院生命農学研究科	中島 史恵

松尾総長が全学教育科目「名大の歴史をたどる」と題して講義

松尾総長は、6月20日(火)、IB電子情報館大講義室において、「名古屋大学で何を学ぶか? - 人類社会の未来ビジョンを共創し、行動できる人材たれ-」と題して講義を行いました。これは、大学文書資料室部門長である吉川卓治教授が開講する、新1年生対象の全学教育科目「名大の歴史をたどる」の1回として、正規受講生と本学



講義をする総長

の教職員合わせて約200名が聴講しました。この総長講義は、大学の自校史教育の先駆的な取り組みとして、平成16年度から始まったものです。

まず総長は、世界に満ちている様々な課題を解決するため、本学が学術憲章に基づき進める事業として、世界最先端の研究のほか、ノーベル賞受賞者の研究を継承する若い研究者の育成、世界から注目された女性研究者育成の取り組み、AC21などの国際的な学術コンソーシアム、G30などの国際競争力のある大学づくり、アジア共創教育研究機構などの果敢なアジア戦略などを代表例として挙げました。

その上で総長は、大学の役割は社会の未来ビジョンを共創することにあるとし、その一つとして、少子高齢化が進んだ中でも皆が生き生きと暮らせる社会というビジョンを提示しました。これを実現するためには、高い研究力を前提にしつつも、国際発信力、社会とつながる力、リーダーシップなども備えた人材が必要であるとし、博士課程教育推進機構の設置などを進めて行く考えであると述べました。

この講義の様子は、NUOCW(名大の授業)のインターネットサイトで視聴することができます。

第57回経営協議会を開催

第57回経営協議会が、6月22日(木)、ナショナルイノベーションコンプレックスにおいて開催されました。

会議では、松尾総長からあいさつの後、平成28年度実績報告書、平成28事業年度決算、平成30年度概算要求、労働契約法改正に伴う無期労働契約転換及び大学院生命農学研究科とカセサート大学との国際連携生命農学専攻の設置に



経営協議会の様子

ついて、総長、各担当理事及び副総長から説明が行われ、審議の結果、了承されました。

次いで、第2期中期目標期間に係る評価結果、平成28年度学部卒業生・大学院修了者等の進路状況、平成29年度学部・大学院入学試験状況、大学院の収容定員の充足率、外部資金の受入状況等及び平成29年度会計監査人の選任について報告が行われました。

また、外部委員の方々からは、名古屋大学基金及び周年事業について意見交換がなされ、貴重なご意見が寄せられました。

ホシザキ奨学金授与式を挙

名古屋大学ホシザキ奨学金授与式が、6月30日(金)、豊田講堂第1会議室において挙行されました。本奨学金は、ホシザキ株式会社の会長ご夫妻が設立した「坂本ドネイション・ファウンデーション株式会社」から寄附いただいた株式の配当金を原資として、平成28年度に設立した本学独自の奨学金制度です。「モノづくりを学ぶ、将来ある学生を支



ホシザキ奨学金授与式

援したい」との寄附者のご意志を受け、給付型奨学金として、工学部及び大学院工学研究科（大学院環境学研究科及び大学院情報学研究科のうち、大学院工学研究科に関連する専攻を含む）を対象として、成績が優秀かつ経済的に困窮した学生に対して給付するものです。今年度の奨学生は7名で、授与式では奨学生採用通知書が授与されました。

授与式では、松尾総長から、「モノづくりを志す学生を支援したいという寄附者の強いご意志のもと、独創的かつ高品質なモノづくりにより、学術憲章に掲げる“人々の幸福”に貢献することができる人材となるよう、学業・研究に一層励んでいただきたい」と祝辞があり、受賞者は改めて奨学生としての自覚を深めました。続いて、来賓として、坂本精志坂本ドネイション・ファウンデーション株式会社社長より、「志を大きく持って、自分の分野でNo.1を目指し頑張ってもらいたい」と励ましの辞をいただきました。また、授与式に引き続き、昨年度奨学生による報告会が行われ、1年間の研究の成果を発表しました。

授与式終了後に行われた懇談会では、終始和やかな雰囲気の中で、勉学内容や研究内容、進路等について活発な意見交換が行われ有意義な会となりました。

御嶽山火山研究施設開所式を挙る

長野県木曾町の木曾町役場三岳支所内に開設された名古屋大学御嶽山火山研究施設の開所式が、7月2日(日)、本支所において挙行されました。開所式には阿部守一長野県知事、原久仁男木曾町長、瀬戸 晋王滝村長をはじめ、県や地元の関係者など約60名を迎え、執り行われました。

この施設の設置は、昨年11月に阿部知事から本学に対



阿部知事、原町長、瀬戸村長、総長による施設看板の除幕式の様子

し、木曾地域への御嶽山火山研究施設の設置を要請されたことに応えたものです。式典では、松尾総長から、御嶽山の火山活動評価力の向上、地域主体の防災力向上に対する支援、火山防災人材育成の支援と火山に関する知見の普及が本施設の役割であることが述べられました。阿部知事からは、地元と本学との顔の見える関係が築けることに大きな期待が述べられ、地元の原町長と瀬戸村長からも御嶽山噴火災害が2度と起きないように、施設への期待が述べられました。

施設の開設にあたっては、長野県からの財政的支援を受けるとともに、木曾町からは場所の提供を受けました。施設の運営は、大学院環境学研究科附属地震火山研究センターが行い、登山シーズンの週末を中心に特任准教授と研究支援員の2名が滞在します。本施設の運営を通じ、研究成果の地元への還元、顔の見える関係の構築と維持が行われることが期待されます。施設には、地震や火山活動をモニターするための大型ディスプレイも設置され、開所式の1週間前に施設の北西2kmを震源として発生したマグニチュード5.6の地震による余震活動が活発に続いている様子も表示され、式典参加者の注目を集めていました。

あいち・なごや強靱化共創センター開設記念式典を開催

あいち・なごや強靱化共創センター開設記念式典が、7月5日(水)、減災館において挙行されました。

本センターは、大規模災害発生時においても中部圏の社会経済活動が維持されるための研究開発や事業を、産官学が戦略的に推進するための組織であり、産業界の賛同を得て、愛知県、名古屋市、本学が設立したものです。



銘板を上掲する大村知事、河村市長、総長

式典は、大山真未文部科学省大臣官房審議官、塚原浩一中部地方整備局長、小川正樹中部経済連合会専務理事を来賓に迎え、主催者として大村秀章愛知県知事、河村たかし名古屋市長、松尾総長、あいち・なごや強靱化共創センター長である福和減災連携研究センター長が出席のもと行われました。主催者あいさつでは、まず大村知事が、中部圏における産業防災の重要性について述べられ、続いて河村市長は、この地域の災害危険度について、そして総長からは、産官学の連携した取り組みが欠かせない事について、それぞれ述べられました。また来賓の大山審議官、塚原局長、小川専務理事からそれぞれ祝辞が述べられました。その後、福和センター長から、あいち・なごや強靱化共創センターの概要について説明があり、本センターが関係機関の中核として活動する事が示されました。

式典後には上掲式が行われ、あいち・なごや強靱化共創センターの銘板を減災館の正面玄関に上掲し、最後に減災館全体を加振する震動実験が行われました。その後、式典参加者を対象とした減災館の見学会が行われました。

男女共同参画センター看板上掲式を挙

男女共同参画センター看板上掲式が、7月11日(火)、本館別館において、男女共同参画担当である高橋理事をはじめ、本センターの東村センター長、榊原千鶴教授、三枝麻由美准教授出席のもと挙行されました。

本学は、平成15年1月に「男女共同参画室」を創設して以降、学内保育園・学内学童保育所の設立、ワークライフ



男女共同参画センター看板上掲式

バランス推進支援、自然科学系女性教員を対象とした「女性PI」公募、理系女子コミュニティ「あかりんご隊」支援、「女子中高生理系進学支援セミナー」、「『ウェルビーイング in アジア』実現のための女性リーダー育成プログラム」、「あいち男女共同参画社会推進・産学官連携フォーラム」等、これまで多様な活動を積み重ねてきました。

これらの実績が認められ、平成27年にはUN Women からHeForSheを推進する世界の主要10大学に選出され、平成28年には、アカデミアにおける男女共同参画の先駆けとしての多大な貢献により、第三回澤柳政太郎記念東北大学男女共同参画賞を受賞するなど、本学の男女共同参画推進は、国内外で高い評価を得ています。

平成29年7月、男女共同参画室は男女共同参画センターに改組しました。男女共同参画センターでは、従来の運営支援業務に加えて、ジェンダー研究や教育にもより一層力を入れ、国内外でのジェンダー平等推進拠点を目指します。とくにジェンダー研究については、名古屋大学ジェンダー・リサーチ・ライブラリ（今年秋に開館）を中心に、全学的な連携協力のもと、推進していく予定です。

第3回名古屋大学卓越・先端・次世代研究シンポジウムを開催

第3回名古屋大学卓越・先端・次世代研究シンポジウムが、7月12日(水)、アジア法交流館アジアコミュニティフォーラムにおいて開催されました。このシンポジウムは、本学の最先端の研究に触れる機会を得ていただくと同時に透明性の高い研究環境を目指し、人文社会系、理工系、生命医学系の各分野に分けて紹介しています。



研究発表の様子

第1回は人文社会系、第2回目は理工系を紹介しました。今回は、現在の世界規模で生じている様々な課題の解決には、哲学的な思索、透徹した文明論・文化論、イデオロギー探求といった人文・社会に関わる学問の試みが不可欠であるとの考えに基づき「人類と文化の課題に果敢に挑戦する文系の学問」をテーマとし、人文社会系研究科の協力により開催されました。

木俣副総長からの開会のあいさつの後、大学院人文学研究科・大学院教育発達科学研究科・大学院法学研究科・大学院経済学研究科・大学院国際開発研究科・大学院国際言語文化研究科の6研究科から推薦された社会的発進力のある研究を行う研究者により発表がありました。次世代を担う若手研究者5名と、卓越・先端研究を行うシニア研究者5名による、他分野の聴講者も理解できることを意識した分かり易い研究内容での発表でした。各発表後に設けられた質疑応答では、聴講者から多くの質問があり、学問の分野を超えた活発な意見交換が行われました。最後には、松尾総長から文系の優れた研究をもっと広めてほしいとの講評があり、参加者にとって刺激のあるシンポジウムとなりました。

ソフトウェアの計測

森崎 修司 大学院情報学研究科准教授

実証的ソフトウェア工学（Empirical Software Engineering）という分野の研究に取り組んでいます。ソフトウェア開発に関する理論や技術を実際の開発において活用することによって、それらの効果や制約を確かめる分野です。本稿では、実証的ソフトウェア工学が取り組んでいる課題の一つであるソフトウェアの計測（測定と管理）を紹介したいと思います。本稿はソフトウェアの専門ではない方を対象に当該分野を知っていただくためのものと位置づけ、厳密性よりも理解のしやすさを優先したいと思います。

近年、社会基盤から娯楽にいたるまで生活のすみずみまでソフトウェアが浸透しています。製品やサービスがソフトウェアなしには実現できないことも珍しくありません。計画どおりにソフトウェアの開発を進め、高品質なソフトウェアを作ることの重要性は増してきています。「測定できないものは管理できない」と過去に言われたこともあり、開発の進行中に手間のかからない方法で

計画通り進んでいるか品質に問題がないかを評価する方法が求められています。問題があれば、早期に検出、対応できるようにするためです。しかし、現時点では経験則にもとづく実践的な評価方法はあるものの理論的な裏付けのある手間のかからない計測方法は明らかになっていません。

まず、ソフトウェアがどのようなものかを説明した上で計測が難しい理由を説明したいと思います。ソフトウェアはプログラムとドキュメント（プログラムの説明文書）から成ります。プログラムはコンピューターが実行する命令の集まりです。開発者は命令を組み合わせて指示書を書きます（図1）。プログラムもドキュメントも一部自動で変換や生成をしていますが原則的には人手で書きます*。

プログラムは料理を作るときのレシピに例えることができます。図2に示すような「粘りが出るまでAとBを混ぜる。気温が低いときには暖めながら混ぜる。」といった具合です。この中には、

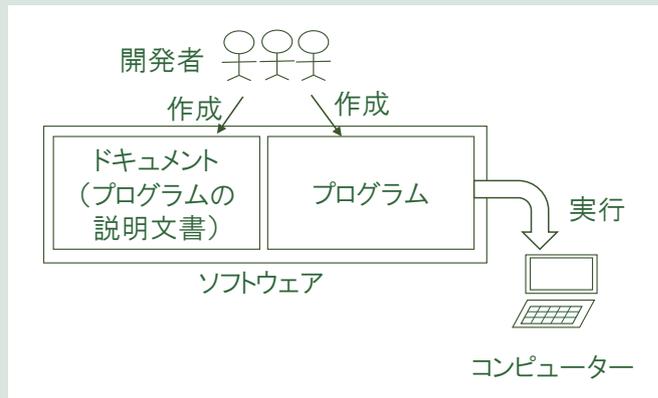


図1 ソフトウェア

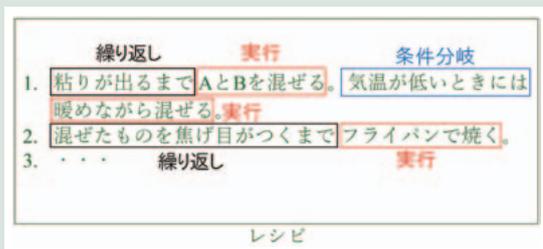


図2 レシピの要素

実行、条件分岐、繰り返しが含まれています。プログラムも、実行（演算）、条件分岐、繰り返しを組み合わせます。大規模化が進んでいるので、図2のような数行の手軽なレシピよりは、結婚披露宴のような大人数を対象に、決められたタイミングで料理を提供するための指示書と捉えたほうが現実になくなります。調達、下準備、複数人での調理、盛り付け、配膳までを含めたもので、想定した味、見た目のものを提供するための指示書です。プログラムはこれをさらに大規模化したものです。たとえば、2007年に販売開始になったWindows Vistaは4000万を超える指示から成ると開発元のマイクロソフトの研究者が論文で報告しています。

プログラムをそうした大規模なレシピと捉え、手間のかからない方法で計測できるか考えます。レシピがまだ完成していない段階で、締切りまでに書き終えることができるかどうか、レシピによって期待通りの料理が適切なタイミングで提供できるかどうかを評価するにはどうしたらよいでしょうか。たとえば、レシピの行数（文字数や指示の数でもよい）は簡単な計測方法ですが、行数でレシピを評価するのが難しいのと同様にプログ

ラムを命令の数だけで評価することは簡単ではありません。すでに正解のレシピがあれば、それと比較することができますが、すでにあるレシピを改めて一から作る状況はあまりありません。行数が増えると順調に進んでいる可能性が高いのですが、増えたからといってレシピの作成が計画通りかどうかはわかりません。より適切な手順があるのにまわりくどい手順をしている可能性もあります。

実証的ソフトウェア工学の分野では、品質が高いプログラムは次の条件を満たしていることが多いことが経験則として知られています。適度な規模で分類され理解しやすくなっている（ミスをしにくい、ミスを見つけやすい）、プログラムを作成、参照する開発者の人数が多すぎない、長年維持されているプログラムにおいては、場当たり的な変更を繰り返していない、といったものです。より客観的で精緻なものとするため、企業の研究者も含め、計測方法が活発に議論されています。

計測方法が客観的で精緻になれば、開発費用の算出根拠にもなり得ます。現時点では、ビジネスを優先し、品質が不十分であってもまずは市場シェアを獲得するためにリスクをとって出荷することがありますが、利用者も開発者にもデメリットがあります。計測が客観化、精緻化されればそうした状況も変わるかもしれません。

*: 技術の進展により、機械学習、人工知能といった例外がでてきてはじめていますが、ここでは2017年現在において主流である人手による作成を前提にします。

2001年奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科博士後期課程修了後、ソフトウェア技術者として情報通信企業でソフトウェア開発に従事する。博士（工学）。2013年10月より現職。ソフトウェア工学研究として議論の価値が高く、実務としても役立つ研究テーマ設定を心がける。

もりさき しゅうじ



有機化学を学び、分子を創る醍醐味

有機化学の教科書には、たくさんの化合物や化学反応が登場します。それらをひたすら暗記する科目というイメージを有機化学に対して抱いている方は少なくないでしょう。しかし、分子を構成する各原子の性質を知り、現象を支配する原理を学べば、反応を論理的に考え、理解し、予測することができるようになります。時には新しい反応を考案し、様々な化学反応を駆使することで、思い描いた化合物を自由に作り出せるのが有機化学の楽しみのひとつです。

研究室で新しい化合物を作り出す際には、まず、市販の化合物から目的の分子を組み立てるための合成ルートを設計します。化学情報の検索システムが進歩したおかげで、様々な化合物のレシピが簡単に入手可能になったため、自分達で考えなくても合成を達成できるケースが増えてきています。便利になった反面、分子を作り出す楽しみが半減したとも言えますが、有機化学の面白さは単に化合物を合成するだけではありません。実験室でたくさんの化合物を扱っていると、分子構造の変化によって生じる色や匂いの違いを日常的に

実感します。分子は、形をほんの少し変えるだけで、性質を劇的に変化させます。構造と性質の相関を理解し、望みの働きをもつ分子を創り出す—これこそが有機化学の醍醐味です。

私達のグループは、化学反応を意のままに操る触媒として働く分子や、生命現象の制御・解明に資する分子を開発しています。例えば、3つの窒素原子と2つの炭素原子で構成される1,2,3-トリアゾールという分子に対して、水素結合を形成する能力を高める工夫を施すことで、触媒としての優れた性質を引き出し、従来困難であった化学反応の実現に成功しました(図1, *Chem* 2016, 1, 802など)。また、生命現象を生体分子が織りなす化学反応として理解できるはずだという観点に立つと、触媒分子を創り、作用機構を解明するアプローチが生物との融合研究でも大いに役立ちます。すでに、動植物の概日リズムに作用する新しい分子を見出しており、その構造と機能の相関を解析しながら、メカニズムの解明に挑んでいます(図2)。化学を学び、分子を創る面白さを味わいながら、今後も研究に励んでいきます。

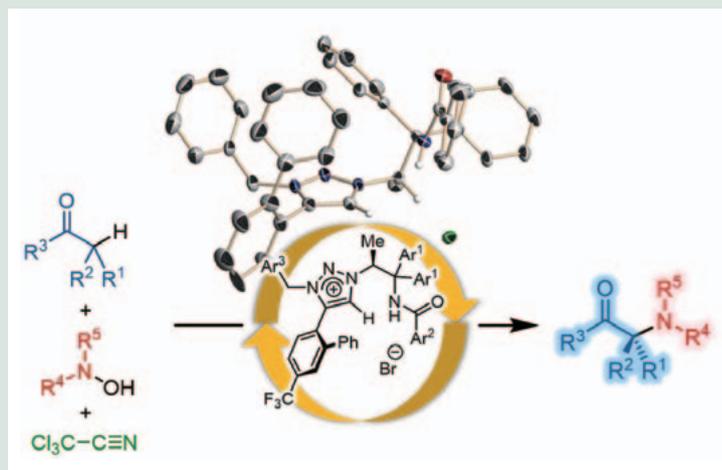


図1 カルボニル化合物にアミンを導入する新反応。中央部の分子は独自に開発した触媒。

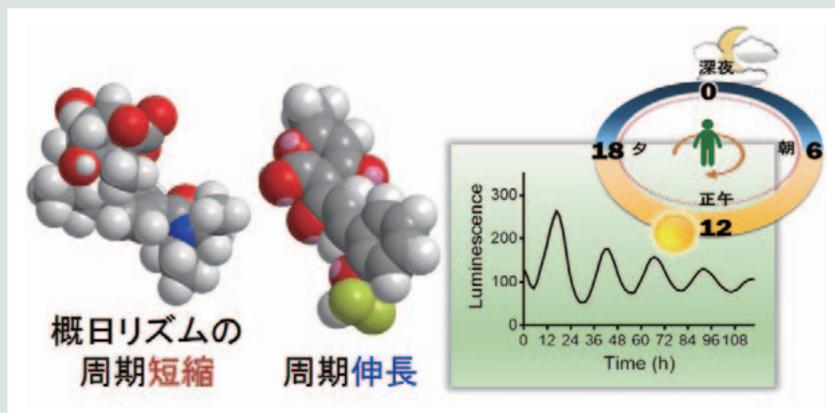


図2 概日リズムの周期変化を起こす分子。

筒井宣政東海メディカルプロダクツ会長へ紺綬褒章を伝達

●大学院法学研究科、法政国際教育協力研究センター

大学院法学研究科及び法政国際教育協力研究センター(CALE)は、6月28日(水)、アジア法交流館アジアコミュニティフォーラムにおいて、筒井宣政東海メディカルプロダクツ会長への紺綬褒章の伝達式を執り行いました。

紺綬褒章は公益のために多額の私財を寄附した者に国から授与されるもので、伝達式では、松尾総長から筒井会長



筒井会長へ紺綬褒章を伝達

に紺綬褒章(褒章及び木杯)の伝達を行いました。

筒井会長は、本学の客員教授であり、従来から本学の法整備支援事業に深い関心と理解を有し、ウズベキスタン、モンゴル、ベトナム、ラオス、ミャンマーなどアジア諸国に展開している各地の日本法教育研究センターを訪問しています。そこで学ぶ多くの若者との対話を経て、アジアの若者たちが日本法を本格的に学ぶためには、日本文化を伝えることが日本人の使命であると認識するに至り、その一助として、アジア法交流館茶室「白蓮庵」の整備費用を寄附されました。

茶室「白蓮庵」は、主に茶道を通じて留学生が日本文化を体験するとともに、日本人学生と留学生との交流の場として活用しています。また、「アジア法交流」という共通のテーマを通じて、日本とアジア、さらに広く世界の法曹、法学研究者同士の学術交流の場として、異文化理解、法律制度理解を深めるためにも使用しています。

第25回名古屋ビジネスセミナーを開催

●大学院経済学研究科

大学院経済学研究科附属国際経済政策研究センターは、6月23日(金)、日本経済新聞社名古屋支社において、第25回名古屋ビジネスセミナーを開催しました。

同セミナーは名古屋大学経済学部同窓会のキタン会と共同で開催しており、今回は寺澤朝子中部大学教授を講師として迎えました。



講演中の寺澤教授

第25回は「なぜ、企業不祥事は繰り返されるのかー組織行動論・変革論の見地からー」をテーマとし、事前申込者・参加者ともに100名を超えました。

寺澤教授は企業不祥事の原因として①組織の硬直化、②日本特有の条件の2点を挙げた上で、硬直化を打破した例として大企業と中小企業の事例を紹介しました。事例研究を通して「組織の治療と処方箋」として短期的には、実質的なチェック機能を果たす社外取締役の活用、長期的には、プロフェッショナル化による、組織に優る強い個人への転換を提案しました。また、公式権限のない組織メンバーも組織を変えることは可能とし、ボトムアップ・アプローチの有効性について論述しました。アンケートでは「印象深い事例であった」、「紹介された処方箋を是非実践したい」、「リアルで、現在進行形の学問」、「組織改革に取り組む際の気付き、考え方のヒントになった」といった意見が寄せられました。質疑応答時にも活発な意見交換が行われました。

ベトナム保健省から Memorabilia “For People’s Health” を授与

●大学院医学系研究科

後藤秀実医学系研究科消化器内科学教授は、6月30日(金)、グエン・ティ・キム・ティエン ベトナム保健大臣から、Memorabilia “For People’s Health” (国民健康貢献賞) というベトナム保健省において、最も重要なメダルと感謝状を授与されました。

消化器内科は、2012年6月以降、ベトナム中部にあるフ



国民健康貢献賞授与式の様子

(写真左から、バクマイ病院のグエン・クオック・アイン病院長、後藤教授、キム・ティエン保健大臣)

エ医科薬科大学との交流を活発にし、両施設間での基本合意を締結、さらに本学支援により、2013年9月にフエ医科薬科大学に内視鏡トレーニングセンターを設置しました。その後、内視鏡トレーニングの指導など、毎月1週間、医師(延べ30名)と看護師(延べ18名)をフエ医科薬科大学に派遣しました。2014年7月には、ベトナム北部にあるバクマイ病院にも内視鏡トレーニングセンターを設置し、フエ医科薬科大学同様に、医師と看護師を派遣しました。ベトナムからは、医師23名、看護師7名を招へいし、内視鏡及び消化器病学の新しい知識・技術の習得に励んでいたできました。2016年には、ベトナム南部にあるチョライ病院、ホーチミン医科薬科大学の University Medical Center とも交流しました。

また、これらの主だった病院等と共同して内視鏡ワークショップを開催し、ベトナム全土におよそ150名以上の医師、看護師を派遣して、消化器病学の医療知識・技術の向上、普及に取り組みました。

今回の授与は、内視鏡治療の技術が飛躍的に進歩し、胃癌も早期に発見・治療されるなど、ベトナム国民の健康を支える礎を築いたことによるものです。

第二回医薬系3部局交流シンポジウム及び環境医学研究所・群馬大学生体調節研究所合同シンポジウムを開催

●環境医学研究所

環境医学研究所は、6月16日(金)、野依記念学術交流館カンファレンスホールにおいて、大学院医学系研究科、大学院創薬科学研究科と合同で、「第二回医薬系3部局交流シンポジウム」を開催しました。また、今回は「環境医学研究所・群馬大学生体調節研究所合同シンポジウム」を併催し、教員、研究員、大学院生、学部学生など約200名が



講演者を交えた集合写真

参加しました。

大学院創薬科学研究科(第一回主催)からバトンを受けとり開催した同シンポジウムでは、若手研究者によるセッションとして、山下貴之環境医学研究所准教授、渡邊征爾環境医学研究所助教、蟹江 慧創薬科学研究科助教、入江克雅細胞生理学センター助教、佐藤和秀医学系研究科特任助教が、それぞれ部局を代表した最新の研究成果を発表しました。また、招待講演として、平山 祐岐阜薬科大学准教授、林(高木) 朗子群馬大学生体調節研究所教授、福中彩子群馬大学生体調節研究所助教による講演が行われました。多岐にわたった講演内容で、聴講者から活発な質問がなされました。また、ポスターセッションには、48演題が集まり、活発な議論が展開されました。その後、ポスター会場において懇親会がありました。群馬大学、岐阜薬科大学からも多くの教員が参加・発表したことで、部局の垣根だけでなく、大学の垣根を超え親睦が深まりました。

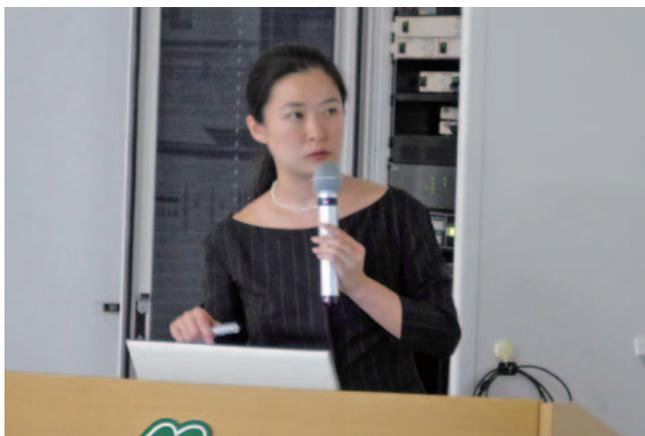
同シンポジウムは3部局の連携・交流の促進と、若手・次世代研究者の育成の場として設けられています。継続的な開催により、より一層の連携・交流が進むことが期待されます。

第131回防災アカデミーを開催

●減災連携研究センター

減災連携研究センターは、6月20日(火)、減災館1階減災ホールにおいて、第131回防災アカデミーを開催しました。

今回は、藤田香織東京大学大学院工学系研究科准教授が「歴史的木造建築の耐震診断と補強」と題した講演を行い、107名の参加がありました。藤田教授は代表的な伝統木造の研究者の一人です。近年、古民家再生やリノベーション



講演する藤田教授

などをはじめ、既存建築物の利活用が大変活発化しています。その際に必ず問題となるのが構造的な安全性、特に耐震性です。実物の古い木造家屋に対する加力実験や部材実験、さらには計算を通して見える日本の伝統木造に共通する弱点の説明がまずありました。一方向に開口部が多いこと、垂れ壁の柱への影響、接合部における柱断面の欠損などです。次にそれを補う上での耐震補強の実例も分かり易く説明されました。耐震補強の条件として、構造的合理性、施工が容易なこと、計画的に無理がないこと、醜くならないこと、経済的であることなどをあげ、まだまだ課題が多いとの指摘がありました。

講演後、会場からは名古屋城の耐震性など素朴な疑問から、実際に郷里の古民家の耐震補強に取り組んでいる方からの専門的な質問まで多様な反響がありました。日本の伝統木造の構造耐震性の研究は、20年あまり前の阪神淡路大震災後から本格的に始まった分野であり、まだまだ発展途上であることが述べられました。

第6回減災連携研究センターシンポジウムを開催

●減災連携研究センター

減災連携研究センターは、6月29日(木)、減災館1階減災ホールにおいて、第6回減災連携研究センターシンポジウム「地震予測の現状と課題」を、専門家、マスコミ、一般市民など約180名の参加を得て開催しました。

前半は新井伸夫同センター特任教授の司会で、鈴木康弘同センター教授、防災科学技術研究所の藤原広行氏、鷺谷 威



シンポジウムの様子

同センター教授からそれぞれ、活断層地震の予測、全国地震動予測地図、ならびに大震法の現状と課題について講演が行われました。引き続き、後半では、武村雅之同センター寄附研究部門教授がコーディネータを務め、上記3名に加えて、古村孝志東京大学地震研究所教授、今村文彦東北大学教授、岩田孝仁静岡大学教授と福和同センター長が加わり、「自然科学の知見をどう社会(防災)に役立てるか?」をテーマにパネルディスカッションが行われました。その中で地震予知は現状ではできないこと、地震予測も相当の不確定さを伴うことが確認され、そのことを充分理解した上で予測結果を活用すべきであるということが確認されました。一方で、予測だけでなく、地震発生後の地震発生メカニズムに関する情報提供や緊急地震速報などでも理学的な知見が大きな役割を果たしていることが指摘されました。また、理学と工学の研究目的や研究姿勢の違いなども議論され、防災にとって相互理解と連携を進めることの重要性が確認されました。

終了時刻まで、熱心な議論に聴衆も退席することなく最後まで聞き入っていました。

第23回博物館特別展 「球状コンクリーションの謎」を開催

●博物館



特別展講演会の様子

博物館は、3月14日(火)から7月8日(土)までの間、第23回特別展「球状コンクリーションの謎－化石永久保存のメカニズム－」を開催しました。来館者が1万人を超えるなど好評であり、開催期間中の特別講演会では、球状コンクリーション形成に関する最新の研究成果のほか、近年、火星で発見された球状鉄コンクリーションの成因や今後の火星探査の意義などについても紹介がありました。それぞれの講演会とも100名を超える参加者があり、急遽展示会場にモニターを設けるなどの対応をしました。参加者には、若い人も多く見られ、地層中で形成保存される球体の岩石塊の成因やその形成メカニズムの面白さに聴き入っていました。講演終了後も、30分以上の質疑応答があり、参加者の興味深さが伝わる講演会でした。「今後も研究の展開と成果を展示・報告してほしい」との声が複数寄せられ、博物館としても引き続き情報発信を行う予定です。

「名大キャンパスの野鳥」を開催

●博物館



展示室の様子

博物館は、4月3日(月)から7月7日(金)までの間、博物館野外観察園セミナーハウス2階において、「名大キャンパスの野鳥」を開催し、975名の来園がありました。本学のキャンパス内には豊かな自然林や水辺があり、約50種の野鳥が観察されます。野鳥展はこれまでも何度か行っており人気のある展示の一つですが、今回は学生サークルである生物研究会部長の周戸大季さんの協力を得て、写真を一新して野鳥の紹介に取り組みました。野鳥の声を聴くことができるバードボイスペンが好評で、普段気になっていた鳥の名前がやっと分かったという声が多く寄せられました。展示に合わせて4月29日(土)にはキャンパス探鳥会も開催されました。当日はカワセミ、オオルリ、キビタキなどの学内では珍しい野鳥が観察でき、好評のうちに終了しました。

「達人と話そう・おもしろ博物学」を開催

●博物館



大路博物館長による講演の様子

博物館は、5月27日(土)、6月3日(土)、17日(土)の3日間、「達人と話そう・おもしろ博物学」を開催しました。達人と話そうは、2010年から名古屋市生涯学習課と連携で開催し、今年で8年目を迎えました。今年では延べ223名の参加があり、毎回、講義室はあふれんばかりの人でした。「文系の先生の講演も聴きたい」というアンケート結果により、昨年度から講演者は博物館教員と博物館運営委員の教員が担当しています。今年、大路樹生博物館長による「生物界の農耕革命－モンゴル調査から探る生命進化－」、渡邊 彰生命農学研究科教授による「めぐる めぐる 循環と土壌と人類」、佐々木重洋人文学研究科教授による「鬼は神?!－奥三河、花祭りの世界観を読み解く－」の講演が行われ、実物標本を講演に持ち込むなど、いずれも参加者の興味を引き、活発な質疑応答がありました。

名大を表敬訪問された方々 [平成29年4月16日～7月15日]

日付	国/地域	訪問者	目的
4月24日～25日	オーストラリア	アデレード大学健康学部長ほか1名の来訪	表敬訪問及び共同教育・研究、JDPについての打合せ
4月25日	英国	リーズ大学副学長ほか5名の来訪	表敬訪問
4月27日	香港	香港科学技術大学副学長ほか6名の来訪	表敬訪問及び学術交流の可能性についての懇談
5月15日	ウズベキスタン	駐日ウズベキスタン大使ほか2名の来訪	表敬訪問
5月22日～26日	ロシア	クラスノヤルスクから訪問団（シベリア連邦大学等）14名の来訪	表敬訪問及び学術交流についての懇談
5月30日～31日	米国	ノースカロライナ州立大学学長ほか2名の来訪	表敬訪問及び学内研究所見学
6月1日	メキシコ	モンテレイ工科大学から4名の来訪	表敬訪問及び学術交流の可能性についての懇談
6月22日	韓国	在名古屋韓国総領事ほか3名の来訪	表敬訪問
7月5日	中国	大連理工大学学長ほか4名の来訪	表敬訪問及び学術交流についての懇談
7月11日	英国	ケンブリッジ大学セントジョンズカレッジ学生部長ほか9名の来訪	表敬訪問

新たに締結した学術交流協定 [平成29年4月16日～7月15日]

大学間学術交流協定

締結日	国/地域	大学/研究機関名
7月8日	英国	ダラム大学

部局間学術交流協定

締結日	国/地域	大学/研究機関名	部局名
3月13日	ロシア	ムルマンスク極地地球物理学研究所 (PGI) ※	宇宙地球環境研究所
4月20日	アメリカ	ノースカロライナ大学チャペルヒル校医学部	大学院医学系研究科
5月9日	中国	中国地震局地球物理研究所	大学院環境学研究科、減災連携研究センター

※名大トピックス No. 288（5月号）からの追加

構成員を対象とした研修 [平成29年4月16日～7月15日]

実施日	研修名	目的	参加人数
4月21日(金) 4月24日(月)	NUCT 利用講習会	授業・研修等の担当者で、これから NUCT を利用される方を対象に、NUCT を理解し積極的に利用して頂くための講習会	9名 4名
4月25日(火)～ 7月13日(木)に 6回	研究室訪問型 ハラスメント防止研修	ハラスメントに関する基礎知識や対応方法等を学び、ハラスメントの防止意識を高めるため	87名
5月17日(水)	第2回「医療機器・医薬品の安全 使用のための研修」	医療法第6条の12及び医療法施行規則第1条の11の規定に基づき実施し、院内にある医療機器の安全使用の確保を目的としている	341名 (当日出席者) 1,160名 (e-learning 受講者)
5月17日(水)	ハラスメント防止研修会及び 新任教員説明会	工学研究科の新任教員を対象に、教育体制及び教育研究支援体制等の基礎的な知識の取得を目的に実施する。併せて、ハラスメント防止についての研修を行う	29名
5月22日(月)	平成29年度農学部・生命農学研究 科新任事務職員等研修	新任事務職員等を対象にして、附属フィールド科学研究センター稲武、設楽東郷の各フィールドに赴き、各施設の理解を深め事務等の円滑化及び更なる充実等を図る	9名
5月29日(月)～ 6月1日(木)	平成29年度前期医療安全・感染対 策研修	良質な医療を提供する体制の確立及び個々の安全に対する意識の向上を図るとともに、院内感染対策を推進するため	1,935人

構成員を対象とした研修 [平成29年4月16日～7月15日]

実施日	研修名	目的	参加人数
5月31日(水)、 6月1日(木)	平成29年度図書系職員初任者研修	附属図書館に新たに採用された職員、異動により転入した職員及びこれから図書業務を担当予定の職員に対し、図書館業務遂行に必要な基礎的な知識と技術を習得させることを目的とする	20名
6月3日(土)、 6月4日(日)	第13回 平成29年度名大病院緩和ケア研修会	緩和ケアの基本教育の普及	36人
6月9日(金)	DST 学習会	インスリンに関する知識の普及	80人程度
6月27日(火) ～28日(水)	平成29年度東海地区国立大学法人等職員基礎研修	東海地区国立大学法人等機関での勤務経験が半年以上2年未満の者に対し、法人職員の心構え等を改めて習得させるとともに、共通して必要な業務遂行上の基礎知識及び能力を養成	129名
6月29日(木)	第1回 TOEIC IP テスト	特に若手職員を対象に受験の機会を提供することにより、自己の実力を知り、自身の自己啓発の動機づけに繋げる	28名
7月3日(月)、 7月6日(木)	褥瘡スキルアップ学習会	褥瘡予防に関するポジショニング等の知識・技術の普及	各30人程度
7月13日(木)	平成29年度名古屋大学主任研修	名古屋大学職員の主任として職場における役割を自覚し、身につけておくべき態度や意識、リーダーシップ発揮に必要な諸能力醸成する	14名
7月14日(金)	第7回名古屋大学緩和ケア研究会	緩和ケアの基本教育の普及	80人程度

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成29年6月16日～7月15日]

記事	月日	新聞等名
1 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生がプロデビュー以来公式戦26連勝し、記録を更新した	6.16 (金)	朝日(朝刊) 他5社
2 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生が17日、プロ10人、アマ10人が対戦する朝日杯の1回戦に臨む	6.16 (金)	朝日(朝刊)
3 「かすがいキッズ☆将棋フェスタ」開催：8月5日 瀬戸市で行われる藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生と都成竜馬四段との公開対局を春日井市出身の室田伊織女流二段らが解説	6.16 (金) 6.21 (水) 6.28 (水) 6.29 (木)	朝日(朝刊) 読売 中日(朝刊) 毎日(朝刊)
4 本学や静岡大学など東海地区の8つの国立大学は、大規模災害に対応に関する協定を結び、松尾総長は「大災害時には有効に機能するよう形にしたい」と語る	6.17 (土) 6.18 (日) 6.23 (金)	毎日(夕刊) 読売 科学新聞
5 科学する人：研究者増やし、短期決戦 思いもよらない機能に期待 伊丹健一郎トランスフォーメティブ生命分子研究所教授	6.17 (土)	中部経済
6 「都会で化石探検と名古屋市科学館見学」開催：7月22日 講師 氏原 温環境学研究所准教授	6.17 (土)	中日(朝刊)
7 本学の学生サークル「レゴ部」が、デイサービス施設「ミライプロジェクト新瑞橋」でレゴを使った脳トレ教室を開いている	6.17 (土)	中日(夕刊)
8 本学と幸田町は、低温プラズマ技術による高機能イチゴの栽培に成功	6.17 (土) 6.24 (土) 6.29 (木) 6.30 (金)	中日(朝刊) 読売 毎日(夕刊) 日刊工業 科学新聞
9 サイセンス View:素粒子 新たなる「破れ」「小林・益川理論」で予言された「CP対称性の破れ」を証明した「ベル実験」の後継「ベル2実験」が始まることについて、飯嶋 徹現象解析研究センター教授はタウ粒子の電子やミュー粒子への変身について「変身が見つかれば、標準理論を越える新発見だ」と語る	6.18 (日)	読売
10 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生がプロデビュー以来公式戦27連勝し、記録を更新した	6.18 (日)	朝日(朝刊) 他3社
11 第99回全国高校野球選手権愛知大会：8日 教育学部附属高等学校対春日井西高等学校	6.18 (日)	毎日(朝刊)
12 東濃地震科学研究所副所長主任研究員木股文昭氏本学元教授がブックレット「御嶽山 二度と犠牲をださない」を出版	6.18 (日)	読売
13 名城大学将棋大会：18日 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生の師匠、杉本七段らが指導	6.19 (月)	毎日(朝刊)
14 時事雑感：トラックの隊列走行 中日本高速道路社長宮池克人氏本学卒業生	6.19 (月)	中部経済
15 「詰め将棋」藤井四段に挑戦 論理的思考力鍛える 専門誌・アプリで注目 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生	6.19 (月)	日経(夕刊)
16 山本敏充医学系研究科准教授は、吸血した蚊の血液から吸血後経過時間の推定を目的としたヒトDNA型判定をし、吸血2日後まで個人が特定できることを明らかにした	6.19 (月) 6.22 (木)	中日(夕刊) 日刊工業 朝日(夕刊)
17 坂本裕俊理学研究科特任助教らは電気刺激で電子伝導性と白色発光を同時に示す物質を発見	6.20 (火)	日刊工業
18 移植はいま 法施行20年：名大で初の心臓移植手術成功「中部地方で完結」に意義 碓氷章彦医学系研究科教授	6.20 (火)	中日(朝刊)
19 論点：日本の科学研究 国際化急げ 濱口道成前総長	6.20 (火)	読売

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成29年6月16日～7月15日]

記事	月日	新聞等名
20 豊田佐吉氏の生誕150年を記念「あいち発明の夏2017」開催：7月28日 記念講演会「第14回愛知の発明の日」 豊田章一郎全学同窓会会長が講演	6.20 (火) 6.22 (木)	読売 中部経済
21 関西新生 2025年へ息吹 万博・IR誘致 起爆剤 2025日本万国博覧会誘致委員会会長で日本経済団体連合会会長 榊原定征氏本学卒業生	6.20 (火)	日経(朝刊)
22 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生の3年間の成長を追った特別番組「藤井聡太14才」を東海テレビが放送する	6.20 (火) 6.22 (木)	中日(夕刊) 朝日(夕刊)
23 室原豊明医学系研究科教授らは細胞質膜などにあるたんぱく質受容体の「CRHR2」が慢性心不全の発症に関与していることを突き止めた	6.21 (水)	日刊工業
24 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生が28連勝かけ今日対決	6.21 (水)	日経(朝刊) 他2社
25 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生が加藤一二三九段の引退について「加藤先生と対局し、その迫力ある指し手を体感できたことが僕にとって大きな財産になると思っています」と語る	6.21 (水)	中日(朝刊) 他4社
26 第30期竜王戦：26日 本戦1回戦 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生対増田康宏四段	6.21 (水)	読売
27 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生を応援するファンクラブが今夏にも設立される	6.21 (水)	中日(朝刊) 毎日(朝刊)
28 藤井四段 教室は別人 教育学部附属中学校 友人、担任語る 担任の大羽 徹同中学校教諭は「授業中に集中すると机に前のめりになる。対局の時の姿と同じですね」と語る 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生	6.21 (水)	中日(夕刊)
29 本学や防衛医科大学校などのチームは、酒に強いタイプの遺伝子を持つ人は、たとえ酒を飲まなかったとしても、痛風になるリスクが酒に弱い人より2倍近く高いとの研究成果を発表した	6.21 (水) 6.22 (木)	毎日(夕刊) 中部経済
30 本学は、産学共同研究に参加する博士課程の学生を、年俸約300万円でフルタイム雇用する新しい制度を始めた	6.22 (木)	日刊工業
31 ノーベル賞受賞者を囲むフォーラム 次世代へのメッセージ 30年記念セッション開催：6月5日 基調講演 野依良治本学特別教授	6.22 (木)	読売
32 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生がプロデビュー以来公式戦28連勝し、歴代連勝記録1位に30年ぶりに並んだ	6.22 (木) 6.24 (土) 6.26 (月)	毎日(朝刊) 他4社 読売 中日(朝刊)
33 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生の強さのヒミツ 詰将棋・将棋ソフトで実力 指す度 進化	6.22 (木)	朝日(朝刊)
34 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生が公式戦28連勝したことについて大村知事が「これからも大いに精進され、将棋界を代表する棋士として、大成されることを期待しています」とコメントを発表	6.22 (木)	中日(朝刊)
35 余禄：藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生と加藤一二三九段の1局を振り返る	6.22 (木)	毎日(朝刊)
36 名古屋日経懇話会開催：21日 東京大学教授加藤真平本学元准教授が講演	6.22 (木)	日経(朝刊)
37 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生は東海道・山陽新幹線の停電トラブルに巻き込まれず、無事帰途についた	6.22 (木)	朝日(夕刊)
38 プロの壁 アマの1勝 10代対決 藤井四段が鮮やかに 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生	6.22 (木)	朝日(夕刊)
39 「紙つぶて」の新しい筆者：大同大学学長神保睦子氏本学博士課程修了	6.22 (木)	中日(夕刊)
40 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生がプロデビュー以来公式戦28連勝に地元瀬戸市の反応	6.22 (木) 6.23 (金)	日経(夕刊) 毎日(朝刊)
41 公開セミナー「天文学の最前線」開催：8月28日 坂田・平田ホールで行われる	6.23 (金)	読売
42 Culture：藤井四段 進化の軌跡 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生の6歳から現在までの様子	6.23 (金)	中日(朝刊)
43 講演会「ロリータ」とパティ・ページ開催：7月18日 文学部本館で行われる	6.24 (土)	朝日(朝刊)
44 でらサタ：藤井四段の道 快進撃28連勝 八つの頂 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生	6.24 (土)	中日(夕刊)
45 陸上日本選手権：女子1万メートル 2位日本郵政グループ鈴木亜由子氏本学卒業生は「中途半端なレースになってしまった」と語る	6.24 (土)	中日(朝刊)
46 山本耕春環境学研究科教授は、東京大学などのチームが南海トラフ巨大地震が懸念される紀伊半島南東沖で、「ゆっくりすべり」が8～15か月周期で起こっているのを観測したことについて「南海トラフ巨大地震の発生プロセスの解明に向けた必要な研究だと言える」と語る	6.25 (日)	読売
47 無敵14歳 強さの原点 28連勝 藤井四段の集中力 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生	6.25 (日)	毎日(朝日)
48 陸上日本選手権：女子5000メートル、1万メートル 2位日本郵政グループ鈴木亜由子氏本学卒業生	6.25 (日)	毎日(朝刊)
49 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生が、29連勝に挑む	6.25 (日) 6.26 (月)	朝日(朝刊) 毎日(朝刊) 中日(朝刊) 他4社
50 藤井四段「深夜対局」問題は？ 14歳でも個人事業主 労基法適用外 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生	6.26 (月)	中日(夕刊)
51 本学などから小児がんを専門としている医師を派遣し、名古屋市は、西部医療センターに小児がんを専門とする診療科を今年度中に新設する	6.27 (火)	読売
52 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生がプロデビュー以来公式戦29連勝し、30年ぶりに新記録を達成	6.27 (火)	中日(朝刊) 他4社
53 わかる：将棋の藤井「四段」プロ棋士の段位って？ 四段から始まり、一番上は九段。規定の勝ち星などで昇段 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生	6.27 (火)	毎日(朝日)
54 社説：藤井四段が公式戦29連勝 14歳の偉業を祝福する 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生	6.27 (火)	毎日(朝刊)

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成29年6月16日～7月15日]

記事	月日	新聞等名
55 29連勝「藤井熱」沸騰「瀬戸の誇り」焼きそば値引きなど 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生	6.27 (火) 6.28 (水)	朝日 (夕刊) 朝日 (朝刊) 他3社
56 博物館野外観察園セミナーハウス サテライト展示「名大キャンパスの野鳥」開催：4月3日～7月7日	6.27 (火)	朝日 (夕刊)
57 医学部附属病院は、今年4月に心臓移植を初めて行い、成功したと発表した	6.28 (水)	読売 他3社
58 藤本豊士医学系研究科教授は、「ニーマンピック病C型」のたんぱく質が脂質の一種「ステロール」を運び、小器官のリソソーム膜にステロールの豊富な領域を作らせることを明らかにした	6.28 (水)	日刊工業
59 29連勝 地元がお祝い 瀬戸市役所に垂れ幕 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生	6.28 (水)	中日 (朝刊) 他4社
60 出版界も藤井ブーム 書店に特設コーナー続々 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生	6.28 (水)	毎日 (朝刊)
61 憂楽帳：へぼ棋士の読み 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生の活躍について	6.28 (水)	毎日 (夕刊)
62 本学は新たな先端産業を生み出すための産学連携の拠点を、7月1日に名古屋駅前の超高層ビル「JR ゲートタワー」に設けることが分かったと取り上げられる	6.29 (木)	読売
63 本学アジア法交流館の茶室整備に2350万円を寄付した株式会社東海メディカルプロダクツの会長で本学客員教授の筒井宣政氏が紺綬褒章を受け、本学で伝達式を開いた	6.29 (木)	中日 (朝刊)
64 中日新聞「リンクト」：HUMAN'S EYE 部分最適ではなく、全体最適の視点の必要性 松尾総長	6.29 (木)	中日 (朝刊)
65 第30期竜王戦 6組決勝 第1譜：藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生対近藤誠也五段	6.29 (木)	読売
66 大路樹生博物館教授は、愛知県南知多町で34年前に見つかった生物の化石が、ヤドカリの仲間に分類される新属新種の深海生物と分かったことについて「知多半島の師崎層群から例外的に多種の深海動物が見つかるが、貴重なものが多い」と語る	6.30 (金)	毎日 (朝刊)
67 親子で学ぶ 防災・減災ピクニック開催：7月22日 減災館から名古屋都市センターまでをバスで移動しながら、親子で防災・減災について学ぶ	6.30 (金)	毎日 (朝刊)
68 原 順子教育学部附属高等学校副校長は、藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生の学校での様子について「友達同士で遊んでいるときも、穏やかでよく笑う生徒」と語る	6.30 (金)	中日 (朝刊) 他3社
69 14歳の藤井四段、夜の対局問題ないの？ 個人事業主は労働規制の対象外 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生	6.30 (金)	朝日 (朝刊)
70 全国高校野球 愛知大会あす開幕：選手名鑑 教育学部附属高等学校	6.30 (金)	毎日 (朝刊)
71 伊丹健一郎トランスフォーメティブ生命分子研究所教授、坂本裕俊理学研究科特任助教、尾崎仁亮同研究員らは、電気刺激で電子伝導性と白色発光を同時に示す物質を発見	6.30 (金)	科学新聞
72 本学と理化学研究所が連携・協力の推進に示す基本協定を締結	6.30 (金)	科学新聞
73 三菱財団平成29年度三菱財団助成：宮田卓樹医学系研究科教授	6.30 (金)	科学新聞
74 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生のジグソーパズルが発売された	6.30 (金)	朝日 (夕刊) 他3社
75 本学は新たな先端産業を生み出すための産学連携の拠点を、7月1日に名古屋駅前の超高層ビル「JR ゲートタワー」に設けることを発表した	7. 1 (土) 6.30 (金) 7. 1 (土) 7. 6 (木) 7.13 (木)	中日 (朝刊) 朝日 (朝刊) 他2社 中日 (朝刊) 毎日 (朝刊) 日刊工業
76 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生 29連勝記念で特設 愛知県図書館に将棋コーナー	7. 1 (土)	中日 (朝刊)
77 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生について加藤一二三九段が引退記者会見で「素晴らしい後継者を得ました」と語る	7. 1 (土)	読売 他3社
78 時のおもり：蘇る科学主義の野蛮性 国家安全保障への大学の動員 池内 了本学名誉教授	7. 1 (土)	中日 (朝刊)
79 私の履歴書①：晴天の霹靂 米赴任先が経営危機 再建役も「シンク・ポジティブ」日本ガイシ株式会社特別顧問 柴田昌治氏本学卒業生	7. 1 (土)	日経 (朝刊)
80 旧制第八高等学校の学生街として発展した滝子商店街で市民や学生たちが出演する「滝子寄席」が9日に開かれる	7. 1 (土)	毎日 (朝刊)
81 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生が囲碁の井山裕太6冠と対談し、「高校進学については自分の中で迷う気持ちというのがあります」と語る	7. 1 (土)	毎日 (朝刊)
82 本学は「指定国立大学」の指定候補となり、今年度末をメドに再審査される	7. 1 (土) 7. 3 (月)	日経 (朝刊) 日刊工業
83 中日新聞を読んで：後は野となれ山となれ 愛敬浩二法学研究科教授	7. 2 (日)	中日 (朝刊)
84 スーパーフレアの襲来：電子機器を破壊 世界的大停電も 増田公明宇宙地球環境研究所准教授は奈良時代の774年から775年に炭素14の量が通常の20倍に増えていたことについて「この年代に同じ現象が世界的に見つかっている。スーパーフレアの可能性が最も高い」と語る	7. 2 (日)	朝日 (朝刊)
85 病院の実力：婦人科がん 医学部附属病院の実績が取り上げられる	7. 2 (日)	読売
86 私の履歴書②：両親 父はモーレツ証券マン 世話好きな性格は母親 日本ガイシ株式会社特別顧問柴田昌治氏本学卒業生	7. 2 (日)	日経 (朝刊)
87 本学は長野県木曾町三岳支所内に「名古屋大学御嶽山火山研究施設」を開所し、松尾総長は「研究成果を社会に還元していく」と語る	7. 3 (月)	中日 (朝刊) 他5社

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成29年6月16日～7月15日]

記事	月日	新聞等名
88 本学が愛知県や名古屋市とともに設立する研究事業拠点「あいち・なごや強靱化共創センター」が東山キャンパスに開所しセンター長を務める福和伸夫減災連携研究センター教授は「中部全体で防災力を高める仕掛けとなりたい」と語る	7. 3 (月) 7. 5 (水) 7. 6 (木)	日刊工業 日経 (夕刊) 毎日 (朝刊) 他2社
89 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生が佐々木勇気五段との対局に敗れ、プロデビュー以来公式戦29連勝で記録が止まった	7. 3 (月)	中日 (朝刊) 他4社
90 藤井四段 対局者は見た 脚たつき ミス後悔 作戦上回る一手 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生	7. 3 (月)	中日 (夕刊)
91 私の履歴書③:戦争 下校中にも苛烈な空襲 防空壕で寝泊まり、実家は無事 日本ガイシ株式会社特別顧問柴田昌治氏本学卒業生	7. 3 (月)	日経 (朝刊)
92 都議選その後 後 房雄法学研究科教授に聞く 民進も惨敗「2大政党制」白紙	7. 4 (火)	中日 (朝刊)
93 私の履歴書④:趣味 小4の夏 囲碁に夢中 会社人生の人脈づくりに役立つ 日本ガイシ株式会社特別顧問柴田昌治氏本学卒業生	7. 4 (火)	日経 (朝刊)
94 陸上の世界選手権に出場する日本郵政グループ鈴木亜由子氏本学卒業生が練習を公開	7. 4 (火)	中日 (朝刊)
95 ナビゲート2017:AIよりも中学生棋士 エコノミスト吉崎達彦氏 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生について	7. 4 (火)	毎日 (夕刊)
96 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生の活躍により、山形県天童市がふるさと納税の返礼品として用意した将棋セットの人気の急上昇している	7. 4 (火) 7.12 (水)	中日 (夕刊) 毎日 (夕刊)
97 紙つぶて:人生 大同大学学長神保睦子氏本学博士課程修了	7. 4 (火)	中日 (夕刊)
98 中山晋介医学系研究科准教授らは、小腸での自発性ペースメーカーの活動画像を解析した結果、内容物刺激で腸の法則とは別の協調電気活動を実証した	7. 5 (水)	日刊工業
99 レーザー:天野 浩未来材料・システム研究所教授は、「知財戦略は非常に大事」と語る	7. 5 (水)	日刊工業
100 2017年6月 中日新聞 月イチ:26日 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生がプロデビュー以来公式戦29連勝し、30年ぶりに新記録を達成	7. 5 (水)	中日 (朝刊)
101 私の履歴書⑤:中学 恩師の「薫陶」大人の世界 宿直室でマージャン手ほどき 日本ガイシ株式会社特別顧問柴田昌治氏本学卒業生	7. 5 (水)	日経 (朝刊)
102 森 郁恵理学研究科教授らの研究グループは、細胞膜由来活性酸素による寿命延命メカニズムを世界で初めて発見	7. 5 (水) 7. 6 (木) 7. 7 (金)	中日 (朝刊) 日刊工業 読売
103 書籍:「天才棋士降臨・藤井聡太 炎の七番勝負と連勝記録の衝撃」が8月28日に出版される	7. 5 (水)	朝日 (夕刊)
104 厚生労働省の調査で、医療安全の「専従医師」がいる病院は事故対応に積極的傾向があることが分り、長尾能雅医学部附属病院教授は「専従医師を確保するのは難しい場合でも兼任医師や看護師らとの連携を深めることが必要」と語る	7. 5 (水)	日経 (夕刊)
105 DOCTOR が薦める名医:木村 宏医学系研究科教授の紹介 愛知医科大学教授道勇 学氏	7. 6 (木)	中部経済
106 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生の小学生時代の担任教諭がその活躍を教室に新聞を掲示するなどし、子どもたちに伝えている	7. 6 (木)	朝日 (朝刊)
107 記者ノート:竜王戦 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生との対局で勝利した佐々木五段 勝因は準備	7. 6 (木)	読売
108 私の履歴書⑥:名古屋大 城内校舎で築いた友情 卒業後も有志「城遊会」で集い 日本ガイシ株式会社特別顧問柴田昌治氏本学卒業生	7. 6 (木)	日経 (朝刊)
109 中道範人トランスフォーマティブ生命分子研究所特任准教授らは、植物の開花時期を早める化合物を開発	7. 6 (木)	日経 (夕刊)
110 第54回地球教室「ピッチストーンってどんな石？」開催:26日 博物館と新城市鳳来寺山で行われる	7. 7 (金)	毎日 (朝刊)
111 東海キャンパル:意外に堅実恋愛事情 取材して一言 広瀬美咲さん本学学生は「ドラマのような恋愛に憧れつつも、現実には穏やかな日常を求めているのかもしれない」と語る	7. 7 (金)	毎日 (朝刊)
112 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生が公式戦連勝記録が止まった後の対局で中田 功七段に勝利	7. 7 (金)	読売 他3社
113 私の履歴書⑦:囲碁部卒 経営者らと対局バイト「社長の相手に」日本碁子入社 日本ガイシ株式会社特別顧問柴田昌治氏本学卒業生	7. 7 (金)	日経 (朝刊)
114 全国高校野球 愛知大会:1回戦 教育学部附属高対春日井西高等学校は、2対22で敗戦	7. 8 (土)	毎日 (朝刊)
115 私の履歴書⑧:訓練生 新人に試練 伊勢湾台風 水浸しの街、ボートで救援 日本ガイシ株式会社特別顧問柴田昌治氏本学卒業生	7. 8 (土)	日経 (朝刊)
116 名大 MIRAI GSC 開催:8日 本学の理学部や工学部の教官が講義し、レポートをもとに選ばれた高校生50人が第二ステージに進む	7. 9 (日)	中日 (朝刊)
117 私の履歴書⑨:大阪赴任 新設部門 二足のわらじ 傍流・営業 会社人生の原点 日本ガイシ株式会社特別顧問柴田昌治氏本学卒業生	7. 9 (日)	日経 (朝刊)
118 7月2日 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生が佐々木勇気五段との対局に敗れ、プロデビュー以来公式戦29連勝で記録が止まった	7. 9 (日) 7.10 (月)	中日 (朝刊) 朝日 (朝刊)
119 折々のことば:「夢中になる対象はそのときそのときで変わっていいから、なんにでも首を突っ込んでフラフラしてください。」益川敏英本学特別教授	7.10 (月)	朝日 (朝刊)
120 TEDxNagoyaU 開催:9日 桑村航矢さん本学大学院生が「宇宙は誰でも行ける」をテーマに登壇	7.10 (月)	読売
121 余禄:藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生が加藤一二三九段を真似て行ったように対局中に将棋盤の反対側に周り、相手の視点で盤を見ることについて	7.10 (月)	毎日 (朝刊)

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成29年6月16日～7月15日]

記事	月日	新聞等名
122 私の履歴書⑩: ニューヨーク 英語苦戦 涙のマティーニ 突破口は「GO クラブ」通い 日本ガイシ株式会社特別顧問 柴田昌治氏本学卒業生	7.10 (月)	日経 (朝刊)
123 目録: 勝負運 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生のプロ入り前について	7.10 (月)	中日 (夕刊)
124 文部科学省は、起業家教育で新事業「次世代アントレプレナー育成事業」で本学を含む5つのコンソーシアムを採択したと発表した	7.11 (火)	日刊工業
125 私の履歴書⑪: マル懸「製品壊れる」謎の苦情 不狸ハンターの格好的に 日本ガイシ株式会社特別顧問柴田昌治氏本学卒業生	7.11 (火)	日経 (朝刊)
126 特集ワイド: 藤井四段に恋する夏 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生	7.11 (火)	毎日 (夕刊)
127 中村和弘医学系研究科教授と八尋貴樹さん医学部生らのグループは、体温調節の行動には温度を「感じる」必要がないことを発見	7.11 (火)	朝日 (朝刊) 毎日 (夕刊)
128 坪木和久宇宙地球環境研究所教授は、九州北部の豪雨について「線状降水帯による豪雨は、九州地方特有の現象ではない。同様の被害は、全国各地で発生する恐れがある」と語る	7.12 (水)	読売
129 相次ぐゴール転倒事故 固定難しい? 内田 良教育発達科学研究科准教授は、「小学校の授業程度なら本物のゴールにこだわらず、ハードルやコーンで代用する手もあるのではないかと語る	7.12 (水)	朝日 (朝刊)
130 水泳飛び込む 角度に注意 内田 良教育発達科学研究科准教授と東京都高校体育連盟水泳専門部井口成明氏が共同で東京都の中高の水泳部員約2千人に調査したところ、35%が「体の一部をプールの底に打ったことがある」と答えたことが分かった	7.12 (水)	朝日 (朝刊)
131 ミスせともの谷口明日菜さん本学3年生が瀬戸市長を訪れて抱負を語った	7.12 (水)	毎日 (朝刊)
132 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生が加古川清流戦3回戦で勝利し、ベスト8に入った	7.12 (水)	読売 他2社
133 私の履歴書⑫: 節目 感じた時代の転換点 キング師・三島…そして結婚 日本ガイシ株式会社特別顧問柴田昌治氏本学卒業生	7.12 (水)	日経 (朝刊)
134 本学と名古屋工業大学、三重大学は、共同研究のパートナーを募る合同説明会を開いた	7.12 (水) 7.14 (金)	日経 (朝刊) 読売
135 NIE 全国大会名古屋大会開催: 8月2、3日 天野 浩未来材料・システム研究所教授「世界を照らすLED～未来を照らすことの大切さ～」と題して記念講演	7.13 (木)	読売
136 中学生防災リーダー養成講座開催: 講師 阪本真由美減災連携研究センター非常勤講師	7.13 (木)	毎日 (朝刊)
137 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生が大相撲名古屋場所を観戦し「自分もあれぐらいの気迫で将棋盤に向かいたい」と語る	7.13 (木)	毎日 (朝刊) 他2社
138 藤井四段 支える環境を 羽生3冠が藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生について語る	7.13 (木)	中日 (朝刊)
139 質問なるほど: モンテッソーリ教育 特徴は? 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生が幼稚園生の頃に受けたモンテッソーリ教育が注目されている	7.13 (木)	毎日 (朝刊)
140 私の履歴書⑬: 水処理 田中首相「よっしゃ」一言 新潟の営業にお墨付き 日本ガイシ株式会社特別顧問柴田昌治氏本学卒業生	7.13 (木)	日経 (朝刊)
141 故郷モスルで診る日まで イラクの医師2人が医学部附属病院で2ヶ月間の研究に参加している	7.13 (木)	朝日 (夕刊)
142 市民公開講座「こんな発想があったんだ、排泄(はいせつ)ケア!」開催: 15日 医学部附属病院中央診療棟3階講堂で行われる	7.13 (木) 7.14 (金)	中日 (朝刊) 毎日 (朝刊)
143 新井史人工学研究所教授らは世界最高速の細胞分取技術の開発に成功	7.14 (金)	日刊工業
144 働き方改革 最前線 政策を生かす④: 長時間は正へ「切り札」本学発ベンチャーの株式会社スナップショットは退勤から出勤まで11時間空ける「勤務間インターバル」を従業員に義務付けることを開始	7.14 (金)	日経 (朝刊)
145 記者の目: 藤井聡太四段とメディア「見て面白い将棋」体現 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生	7.14 (金)	毎日 (朝刊)
146 子どもに将棋教えるには 最初は「玉」「飛」「角」3種類で 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生の活躍で注目を集める将棋	7.14 (金)	中日 (朝刊)
147 私の履歴書⑭: 狂乱物価 水事業 売れども赤字 工費見直しへ業界団地設立奔走 日本ガイシ株式会社特別顧問柴田昌治氏本学卒業生	7.14 (金)	日経 (朝刊)
148 本学とアイサンテクノロジー株式会社など5社は愛知県で無人自動車を公道で走らせる「レベル3」実験を開始	7.15 (土)	日経 (朝刊)
149 医学部附属病院 市民公開講座「肝臓の病気について学ぼう」開催: 7月23日 医学部附属病院中央診療棟3Fで行われる	7.15 (土)	中日 (夕刊)
150 フロントランナー: 「研究」は夕食後のリビングで 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生	7.15 (土)	朝日 (朝刊)
151 質問なるほど: 藤井四段 昇段しないの? 条件満たす必要 理事会認めれば可能 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生	7.15 (土)	毎日 (朝刊)
152 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生が活躍する地元愛知県は、女子の将棋部門で豪強がひしめき、南山高等・中学女子部はソフトより対話で鍛錬	7.15 (土)	朝日 (朝刊)
153 とんがる AbemaTV無料の動画配信 企画で勝負 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生が先輩棋士と非公式で対決する独自番組「炎の7番勝負」も各メディアで取り上げられた	7.15 (土)	朝日 (朝刊)
154 私の履歴書⑮: ロックガイシ 勝算なき合弁立て直し 労働交渉、百戦錬磨の労組に惨敗 日本ガイシ株式会社特別顧問柴田昌治氏本学卒業生	7.15 (土)	日経 (朝刊)

第13回名古屋大学ホームカミングデイ

「尖った情報技術、やわらかな人間社会」を10月21日(土)に開催

ホームカミングデイには、「故郷に帰る」という意味が込められています。本学の同窓生、教職員 OB・OG、在校生のご家族、地域の皆様をお招きし、本学の教育・研究活動の一端に触れていただく重要な行事として、毎年10月の第3土曜日に開催しています。

第13回目となる今回のメインテーマは「尖った情報技術、やわらかな人間社会」としました。人工知能をはじめとする情報技術が、人間にとってやわらかな社会を創造していく未来について皆様と共に考えていきたいと思っております。

主なイベントを以下にご紹介します。この他にも、各学部・研究科等において、同窓生・保護者の皆様向け行事等も企画しておりますので、チラシやホームページをご覧ください。また、今回は、「テクノ・フェア名大」、「名大祭秋革祭」も同日開催いたします。どなたでもご参加いただけますので、ご家族、ご友人の皆様とお誘い合わせの上、是非、お越しください。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

主なイベント

【名古屋大学の集い】

- ・全学同窓会活動報告
- ・国際交流貢献顕彰授与式
- ・名古屋フィルハーモニー交響楽団コンサート

【学術講演】

- ・「人工知能を大局的にとらえ、未来を考える」

【市民公開講座等】

- ・「省エネルギー社会の実現を目指して！」
- ・「がん薬物治療の最前線：どれくらい効くようになったのか」
- ・「中高年の生活習慣病対策と認知症予防」
- ・「『日本人の生きる力』～この世は娑婆！人の世は奈落！～」
- ・「地産地消のエネルギー（屋久島・瀬戸内海）」 ほか

【体験企画】

- ・あかりんご隊科学実験「光のひみつ」
- ・名古屋グランパス・スクールコーチによる親子ふれあいサッカー教室
- ・「情報」を体験しよう！

【施設公開】

- ・ジェンダー・リサーチ・ライブラリ (GRL) 内覧会
- ・ナショナルイノベーションコンプレックス (NIC)
- ・トランスフォーマティブ生命分子研究所 (ITbM)
- ・減災館 ・赤崎記念研究館展示室
- ・2008ノーベル賞展示室 ・ケミストリーギャラリー

【見学ツアー】

- ・超高压電子顕微鏡施設見学ツアー
- ・劣化橋梁施設 N²U-BRIDGE の見学
- ・メディアスタジオ見学ツアー
- ・スーパーコンピュータ見学ツアー

【図書館・博物館・大学文書資料室企画】

- ・オープンライブラリー
- ・秋季特別展「旗本高木家の明治維新」
- ・本のリユース市
- ・博物館企画「ミクロの探検隊」
- ・博物館企画展「ムシの世界」
- ・博物館企画展関連企画「虫の3D切り紙実演」
- ・博物館公開講演会「大学博物館が語る、地球と人類のヒストリー：人類史と動植物」
- ・野外観察園公開
- ・サテライト展示「野外観察園のボタニカルアート夏・秋」
- ・名大史資料展－こんな史料ありませんか－

【販売コーナー】

- ・農産物の販売
- ・生協の名大グッズ等の販売

【各種相談会】

- ・卒業生子育て支援企画：名大パパ+ママサロン
- ・シュウサポ OBOG 交流会
- ～これからのキャリアについて考えよう～ ほか



お問い合わせ先

Development Office (DO室) TEL : 052-747-6558, 6559 E-mail : home-coming@adm.nagoya-u.ac.jp

名古屋大学ホームカミングデイホームページ <http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/home-coming-day/>

「名古屋大学プロフィール2017」を刊行

本学では、このたび概要パンフレット「名古屋大学プロフィール2017」を刊行しました。

本誌は、本体編と資料編（各年1回発行）の2冊で構成されています。本体編は、「名古屋大学の強みを発信する」

をコンセプトに制作しており、今年度は「しなやかに、突破する」と題して、インタビュー形式でわかりやすく本学を紹介しています。資料編は、数字等のデータにより、本学の取り組みを客観的に紹介しています。

ご入り用の方は、総務課広報室で入手できます。

また、高校生向けパンフレット「GUIDE TO NAGOYA UNIVERSITY 2018」（年1回発行）も刊行しました。

ご入り用の方は、入試課で入手できます。



イベントカレンダー

開催月日・場所・問い合わせ先等	内容
8月22日(火)、23日(水) 場 所：IB 電子情報館南棟4階462号室 時 間：10:00～17:00 (8/22)、 10:00～17:30 (8/23) 対 象：中学生、高校生 (両日参加可能な方) 定 員：16名 参 加 費：無料 [問い合わせ先] 情報学研究科 助教 小田昌宏 052-789-5688	日本学術振興会連携事業 ひらめき☆ときめきサイエンス ～ようこそ大学の研究室へ～ KAKENHI テー マ：「3DプリンタとVRを使って臓器モデルを作ろう！」 -医用画像処理の体験- 内 容：「CT画像」をコンピュータで処理する医用画像処理と3DプリンタとVRの医療応用について学ぶ
8月29日(火)、30日(水) 場 所：情報基盤センター4階演習室 時 間：13:00～17:00 (8/29)、 11:00～18:00 (8/30) 対 象：一般 参 加 費：無料 [問い合わせ先] 情報基盤センター 教授 片桐孝洋 katagiri@cc.nagoya-u.ac.jp	情報基盤センター 国際会議 DPMAT2017 内 容：自動性能チューニング (AT) のための性能モデルや AT 手法および AT 適用の対象となる固有値問題アルゴリズムや数値シミュレーションアルゴリズムに関する国際会議

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

8月31日(木)

場 所：中央図書館2階
ディスカバリスクエア
時 間：18:00~19:30
対 象：一般
参 加 費：無料

**附属図書館友の会トークサロン
「ふみよむゆふべ」第40回**

講演題目：「西鶴が描く人間の『虚実』」
講 演 者：堅田陽子氏（岐阜工業高等専門学校講師）



[問い合わせ先]

附属図書館情報サービス課 052-789-3684

8月31日(木)

場 所：工学部7号館B棟2階716講義室、
ES 総合館1階ES会議室、
理学部E館地階E-B115室
時 間：9:00~17:00
定 員：35名
対 象：高校生以上でパソコンの使える方
参 加 費：500円（傷害保険料含む）

理学部装置開発室公開講座「3D工房」

内 容：3D-CADと3Dプリンタの体験実習



[問い合わせ先]

全学技術センター理学部装置開発室
052-789-2439

9月16日(土)

場 所：豊田講堂
時 間：13:00~16:20
対 象：一般
参 加 費：無料

名古屋大学レクチャー2017

「生命存続の基本原則を紐解く」

講演題目：「厳しい環境で生きる植物の生存戦略
—植物遺伝子の働きと制御—」

講 演 者：篠崎一雄（本学特別教授）

講演題目：「私がたどった研究の道
—DNAの不連続複製機構からヒト染色体構築まで—」

講 演 者：岡崎恒子（本学特別教授）

内 容：生命存続の基本原則にかかわる素晴らしい研究成果「岡崎フラグメント」がどのように生まれたのか、当時の時代背景なども織り交ぜながらわかりやすく講演し、本学の教員が解説講演する



[問い合わせ先]

高等研究院 052-788-6153

9月20日(水)

場 所：博物館2階展示室
時 間：14:00~15:00
定 員：200名（立ち見あり）
参 加 費：無料

第69回博物館コンサート NUMCo

「アイルランド紀行」

演奏曲目：「Copper Plate」、「Eleanor Plunkett」、他

出 演：小松 大氏（フィドル）、
山本 篤氏（イリアンパイプス）、
山本晴美氏（コンサーティーナ、フルート）、
山本哲也氏（ギター）



[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

名大トピックス No.291 平成29年8月17日発行

編集・発行／名古屋大学総務部総務課広報室

本誌に関するご意見、ご要望、受賞の掲載、記事の掲載などは広報室にお寄せください。

名古屋市千種区不老町（〒464-8601）

TEL 052-789-2699 FAX 052-789-2019 E-mail kouho@adm.nagoya-u.ac.jp

名大トピックスのバックナンバーは、名古屋大学のホームページ（<http://www.nagoya-u.ac.jp/about-nu/public-relations/publication/index.html>）でもご覧いただけます。

表紙

研究所研究館IIの前で
おしゃべりを楽しむ
留学生ら
（平成29年5月26日）



184 教育学部附属学校の東山移転まで

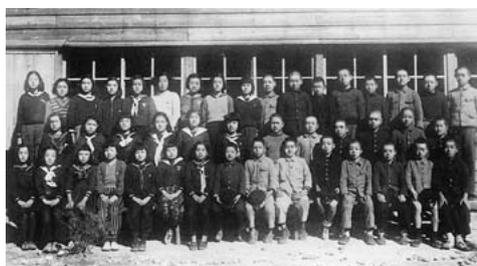
今年6月に29連勝の新記録を達成した、将棋プロ棋士の藤井聡太四段は、名古屋大学教育学部附属中学校の3年生です。今回は、この附属中学校及び附属高校が、紆余曲折を経て東山に移転するまでの経緯をたどります。

附属中学校の前身は、岡崎高等師範学校附属中学校です。同中学校は今から70年前の1947(昭和22)年に設置され、愛知県豊川市牛久保町の豊川海軍工廠工具寄宿舍だった粗末な建物から歴史が始まりました。49年に岡崎高師が新制名古屋大学に包括されたため、「名古屋大学岡崎高等師範学校附属中学校」となります。翌50年には、附属中学校に隣接して附属高校が設置されました。

1952年に岡崎高師が廃止されると、高校・中学校ともに教育学部附属に移行しました。これに伴い両校は、その隣にあった岡崎高師の旧校舎に移転しました。ここも元は豊川海軍工廠の工具養成所だった木造校舎でしたが、教室の多さと運動場の広さには恵まれていました。

しかし教育学部は名古屋市にあり、附属学校の名古屋への移転が強く望まれました。1953年に名古屋市東区東芳野町の市立工芸高校の一角を借用し、新入生を名古屋で募集しましたが、在校生は豊川に留まり、2年間は名古屋と豊川に校舎が分裂した状態を余儀なくされました。さらに55年には、すぐ隣(同じ東芳野町)の、愛知学芸大学(現愛知教育大学)附属名古屋小学校の旧校舎に移り、ようやく独立した校舎を持つことができました。

とはいえ、この校舎は明治時代の建物であり、老朽校舎として有名でした。当時の名古屋大学は、学部東山への集結を進めるのが精一杯で、附属学校にはなかなか手が回らない状況でしたが、1960年になって文部省の予算事情が好転すると東山移転の話が進みました。東山キャンパス西端に校舎が新築され、63年4月に附属高校が、翌年1月に附属中学校が移転しました。教育学部も、63年11月に名城キャンパスから東山へ移転しています。



1	2
3	
4	5

- 1 岡崎高等師範学校附属中学校の生徒たち(1947年)。現在、1952年に移転するまでの最初の校地には、豊川市立代田中学校がある。なお写真1~5は、いずれも附属学校の『創立50周年記念誌』より。
- 2 1952年に附属学校が移転した岡崎高等師範学校の校地。現在、ここには県立豊川工業高校がある。
- 3 1955年に移転した東区東芳野町(現芳野町)の校舎。最初は1899(明治32)年に愛知県第一師範学校(愛知教育大学の前身の一つ)の校舎として建てられた。現在、この校地には名古屋市立工芸高校がある。
- 4 東芳野町校舎での附属中学校の授業風景(1956年)。
- 5 東山へ移転した附属学校(1967年)。鏡ヶ池の西(この写真では左)側、当時は高校と中学校の二つの校舎と体育館、プール、運動場からなっていた。

